

## 富山県下公的病院の肝疾患患者調査(第1報)

富山県農村医学研究会

石田 礼二 渡辺 正男 北川 鉄人  
一柳 兵蔵 大浦 栄次

私たちは昭和53年末、農業特に農繁期と肝機能について調査研究を行ってきたが、肝疾患についての把握はなされていない。そこで今後の肝疾患の動態の基礎資料とするため各公的病院に受診中の肝疾患患者を調査し、患者の職業や家業との関連を、農業を中心に検討したので報告する。対象の医療機関を公的病院としたのは、入院患者のあること、診断の正確さなどを考慮したためである。尚、今回の第1報はデータの集計がおくれたため、データの提示のみとし、詳細な検討は次回に発表する予定である。

### 調 査 方 法

#### 1. 調査医療機関

右記の県下公的病院、22病院である。

泊病院、黒部市民病院、富山労災病院、厚生連滑川病院、上市厚生病院、県立中央病院、富山市民病院本院及び分院、富山赤十字病院、富山通信病院、済生会富山病院、国立療養所富山病院、新湊市民病院、高岡市民病院、厚生連高岡病院、伏木病院、氷見市民病院、北陸中央病院、砺波総合病院、井波厚生病院、国立療養所北陸病院、城端厚生病院

#### 2. 調査期間及び対象

昭和58年11月、1ヵ月間に診療した原発性肝疾患患者である。

#### 3. 病名の分類

表1の分類で報告してもらった。尚その他の肝疾患には病名を記載した。

表1 病名の分類

番 号	病 名
1-①	急性ウイルス性肝炎 A型
1-②	同 上 B型
1-③	同 上 非A非B型
2-①	慢性肝炎 B型
2-②	同 上 その他
3	アルコール性肝障害
4	薬剤性肝障害
5-①	肝硬変症 B型起因
5-②	同 上 アルコール性
5-③	同 上 その他
6	HBVキャリア
7-①	肝細胞癌 HBV(+)
7-②	同 上 その他
8	その他の肝疾患

HBV：B型肝炎ウイルス

### 調 査 結 果

患者総数は1,618人であった。ただ、そのうち病名分類のその他の疾患が255人あり、殆どが肝障害など保険病名と思われたので、以下の集計からこれをはぶいた。

表2 年齢性別構成

年齢	男	女	計
～19	5(0.6)	3(0.6)	8(0.6)
20～	36(4.3)	26(5.0)	62(4.6)
30～	118(14.1)	48(9.2)	166(12.2)
40～	159(18.9)	84(16.2)	243(17.9)
50～	255(30.3)	164(31.6)	419(30.8)
60～	165(19.6)	118(22.7)	283(20.8)
70～	103(12.2)	76(14.7)	179(13.1)
計	841(100) (61.8)	519(100) (38.2)	1,360(100) (100)

( )：%

### 1. 年齢性別構成（表2）

男が61.8%と約3分の2を占めた。年齢では男女共50代から60代が多く、両者で50%を占めた。

### 2. 職業構成（表3）

職業を専業農業、兼業農業、その他、なし、に分けて調査したが、肝疾患全体では農業は男女共21%で差がなかった。

表3 職業別構成

職業	男	女	計
農業(専業)	37(4.4)	30(5.8)	67(4.9)
農業(兼業)	142(16.9)	85(16.3)	227(16.7)
その他	490(58.5)	200(38.4)	690(50.8)
なし	169(20.2)	205(39.5)	375(27.6)
計	838(100)	521(100)	1,359(100)

### 3. 家業構成（表4）

男34.2%、女37.1%と差なく、職業が農業である人より約10%多かった。

表4 家業別構成

家業	男	女	計
農業	280(34.2)	189(37.1)	469(35.3)
その他	539(65.8)	320(62.9)	859(64.7)
計	819(100)	509(100)	1,328(100)

### 4. 疾病別人数（表5）

慢性肝炎が最も多く、53.1%を占めた。HBVキャリア（B型肝炎ウイルス保有者）は3.1%であった。

表5 疾病別人数

病名	人数	%
急性ウイルス性肝炎	110	8.1
慢性肝炎	724	53.1
アルコール性肝障害	150	11.0
薬剤性肝障害	64	4.7
肝硬変症	245	17.9
HBVキャリア	42	3.1
肝細胞癌	28	2.1
計	1,363	100.0

### 5. 疾病と職業（表6～9）

急性ウイルス性肝炎、慢性肝炎では、農業従事者の占める割合は、ともに23.6%であった。他の疾患で農業の占める割合は、アルコ

ール性肝障害が25.3%と高いが、他は何れも10%台であった。農業の中では兼業の方が専業より多かった。

表6 疾病と職業

#### ① 急性ウイルス性肝炎

職業	A型	B型	非A非B	計
農業(専業)	0(0)	0(0)	6(7.9)	6(5.4)
農業(兼業)	2(40.0)	5(17.2)	13(17.1)	20(18.2)
その他	3(60.0)	24(82.8)	57(75.0)	84(76.4)
計	5(100)	29(100)	76(100)	110(100)

表7 疾病と職業

#### ② 慢性肝炎

職業	B型	その他	計
農業(専業)	8(5.5)	27(4.7)	35(4.9)
農業(兼業)	31(21.4)	104(18.0)	135(18.7)
その他	106(73.1)	445(77.3)	551(76.4)
計	145(100)	576(100)	721(100)

表8 疾病と職業

#### ③ 肝硬変症

職業	B型起因	アルコール性	その他	計
農業(専業)	3(6.8)	2(4.3)	9(5.9)	14(5.7)
農業(兼業)	3(6.8)	8(17.0)	15(9.8)	26(10.7)
その他	38(86.4)	37(78.7)	129(84.3)	204(83.6)
計	44(100)	47(100)	153(100)	244(100)

表9 疾病と職業

#### ④ その他の4疾患

職業	アルコール性肝障害	薬剤性肝障害	HBVキャリア	肝細胞癌
農業(専業)	9(6.0)	3(4.7)	0(0)	0(0)
農業(兼業)	29(19.3)	5(7.8)	7(16.7)	5(17.9)
その他	112(74.7)	56(87.5)	35(83.3)	23(82.1)
計	150(100)	64(100)	42(100)	28(100)

### 6. 疾病と家業（表10～13）

家業が農業である患者の占める割合は、HBVキャリア24.4%、薬剤性肝障害29.0%の他はすべて30%台であった。

表10 疾病と家業

#### ① 急性ウイルス性肝炎

家業	A型	B型	非A非B	計
農業	2(40.0)	8(30.8)	24(32.0)	34(32.1)
その他	3(60.0)	18(69.2)	51(68.0)	72(67.9)
計	5(100)	26(100)	75(100)	106(100)

表11 疾病と家業

## ② 慢性肝炎

家業	B型	その他	計
農業	55(38.2)	220(38.7)	275(38.6)
その他	89(61.8)	348(61.3)	437(61.4)
計	144(100)	568(100)	712(100)

表12 疾病と家業

## ③ 肝硬変症

家業	B型起因	アルコール性	その他	計
農業	11(26.2)	15(32.6)	50(33.3)	76(31.9)
その他	31(73.8)	31(67.4)	100(66.7)	162(68.1)
計	42(100)	46(100)	150(100)	238(100)

表13 疾病と家業

## ④ その他の4疾患

家業	アルコール性肝障害	薬剤性肝障害	H B Vキャリア	肝細胞癌
農業	48(33.3)	18(29.0)	10(24.4)	8(32.0)
その他	96(66.7)	44(71.0)	31(75.6)	17(68.0)
計	144(100)	62(100)	41(100)	25(100)

## 考 察

今回の調査の主目的は、県内の肝疾患患者のなかで、農業従事者、あるいは農村地帯の居住者の占める割合を知ることである。公的病院のみを対象としたのは、入院患者も含まれること、県下全般にわたること、診断が比較的厳密であることを考慮したためである。

今回の第一報では、集計がおくれたため、詳細な検討はできなかったが、職業、家業としての農業の占める割合を、疾患別にまとめた。

農業の占める割合は、肝疾患全体では、専業4.9%、兼業16.7%、計21.6%であった。

この割合が多いかどうかは、他の職業と有病率、あるいは人口のうち農業の占める割合との比較をする必要がある。ここでは県下人口のうち16才以上の人口（生産年齢人口＋老年人口）の占める割合と比較してみた。昭和

57年1月1日現在の自家農業従事者は201,740人である。この数値は北陸農政局富山統計情報事務所の発表から引用したもので、自家農業従事者とは16才以上の農家世帯員のうち、過去1年間に多少とも自家農業に従事した人数である。一方、16才以上の富山県人口は昭和55年の国勢調査によると、全人口1,103,459人のうち853,500人である。従って16才以上の農業従事者の占める割合は23.6%となる。この数値と比較することは少々問題があるが、傾向として、肝疾患患者のうち農業の占める割合21.6%は、特に肝疾患が農業従事者に多いとは言えないと考えても良いであろう。疾患別にみても、特に農業に高い割合を示した群はない。

農村地帯居住者の占める割合は今回検討できなかったが、自宅が農家である患者の割合をみると、肝疾患全体では35.3%となり、職業が農業の割合に比べると高い。県下の農家世帯数は、昭和57年の統計では70,250戸で、全世帯の24.1%である。これと比較すると、家業が農業である患者の割合は高くなるが、農家の一世帯当たりの人数は4.96人と一般世帯より多く、この比較から農家世帯に肝疾患患者が多いと判断するには無理がある。

今後アンケート内容を充分検討した上で、疾患別、男女別、年齢別などの分析を行い、報告する予定である。

## む す び

県下公的病院で診療中の肝疾患患者の調査を行い、農業との関連を検討した。肝疾患全体のうち、農業従事者は21.6%であった。

終わりに、本調査に御協力いただいた、県下公的病院の方々に深謝します。